熊日1959.11.05

悪質者は全員検挙

水俣の工場乱入事件

県警の方針

さる二日新日窒水俣工場で起った漁民の工場乱入事件について県警本部は四日、緊急捜査会議を開き、今後の捜査方針をきめた。同事件で警官側に八十人余の負傷者=本部調べ=そのうち出動できない重傷者四人、全治十日間以上十八人をだしたことは、これまでに前例がないことで、上原本部長は"悪質なものはもれなく検挙する"とつぎのように語った。

動員をかけた漁民が酒や群衆の勢いで警官隊の制止もきかず、石を投げたり乱暴を働き多数の負傷者をだしたことは、漁民側にはマイナスだと思う。暴力行為などについては情勢をみたうえ、慎重に調査する。現在までの報告では暴行、傷害、暴力行為、公務執行妨害などの疑いがある。立証できたものから順次調べる方針で悪質なものは全員検挙する。

また同本部は事件が暴動にちかい騒ぎとなったことなどの原因を検討したが、

❶漁民が同日午後一時から水俣駅前広場で開く予定であった漁民大会がひらかれず、いきなり工場に押しかけ、先頭の数人が工場正門をのり越え、内側から門を開いて漁民の乱入を容易にしたこと（予定の駅前大会を常識的にうけていた警察のウラをかいたきらいもある）❷漁民が二日朝上陸した百間港で投石用と思われる砂利が陸揚げされ、小型トラックに積んであったのをパトカーが発見、警告した事実❸漁民の大部分が酒気をおびていたが、あらかじめ酒ダルが手配してあったとの情報。

など、一部先鋭派によって同日の乱暴が計画された疑いもあり、併せて捜査を行なっている。

負傷警官に見舞い

県警本部はさる二日新日窒水俣工場で漁民乱入のさい、制止に当って負傷した警官八十人余を見舞うため、四日午後から上原本部長は八代、葦北、水俣各署を訪れた。また五日は土岐警務部長が松橋、宮原署、中村会計課長が三角署、木原警ら交通課長が熊本南北、機動隊をそれぞれ訪ね、負傷者に見舞金をおくってなぐさめる。